

【展覧会概要】

展覧会名：現代・木彫・根付

制作年：2017年

【内容】

和装文化が興隆した江戸時代に、印籠や煙草入れの留め具として使用され、様々な意匠を彫り込んだ根付は世界中で高く評価されています。こうした優れた細密工芸としての「古根付」以外に、新しいアイデアとセンスを盛り込んだ「現代根付」というジャンルが近年注目されつつあります。

本展では、公募によって選ばれた現代根付師が制作した木彫の根付を中心に、加藤泉など活躍中の現代美術作家が制作した根付作品や、実際に触れられる木彫根付の展示などを通じて、新しい切り口から日本の美術工芸の技術の高さと遊び心を紐解くとともに、「現代・木彫・根付」の「現在（いま）と未来（これから）」を紹介します。

主催・企画：独立行政法人 国際交流基金

アドバイザー：小松大秀（永青文庫館長、元東京国立博物館副館長）

公募審査員（協力）：齋藤美洲（国際根付彫刻会 初代会長）

谷田有史（たばこと塩の博物館 主任学芸員）

渡邊正憲（日本根付研究会 元会長）

伊東正伸（国際交流基金 元文化事業部長）

作品点数：65点(62点+3点(触れられる根付))

会場備品条件：展示面積(45~150㎡程度)、アクリルケース(7台)及び体験用根付展示台(1台)付帯。アクリルケース用台座・テーブルは受入会場側の準備が必要

出品作家 46名：

現代根付師：42名

池田朝重、井上猛、石井夢峰、伊藤忠綱、岩田知幸、上原万征、小野里三味、小釣紫苑、加賀美光訓、梶浦明日香、神立る峯、北角両、工藤道斎、栗田元正、黒岩明、駒田柳之、齋藤昌寛、齋藤美洲、阪井正美、桜井英之、沢井向円、鈴木鈴、高木睦仙、田中俊晞、團之原徹巳、多々羅幽山、寺戸松香、道浦道甫、中梶真武、中川忠峰、中川東平、中西宏明、永島信也、中畑泰成、中村和明、人見狛、平賀胤壽、升元一、向田陽佳、矢次柰忠、山崎夢舟、山田洋治

現代美術作家：4名

大竹利絵子、加藤泉、棚田康司、土屋仁応



齋藤美洲 《鷹》 1975年



駒田柳之 《鳥追》 2017年



栗田元正 《瑞兆》 2017年



小野里三昧 《天狗の鼻》 2017年



高木睦仙 《頭蓋骨?》 2014年



中西宏明 《心象》 2007年



永島信也 《DRAGON × QUEEN》 2017年



加藤泉 《Untitled》 2017年